

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|--|---|-----------------|----------------------------|---|-----------------------|-------------|-------|-----------|----------|------------|---|
| 科目名 | 臨床病態学Ⅴ(小児科学) Clinical Pathophysiology and Therapeutics Ⅴ | | 担当教員 (研究室番号) | 藤澤 隆夫 (非常勤) 貝沼 圭吾 (非常勤) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | | | | | | |
| 履修 年次 | 2年次 後期 | 科目 区分 | 専門支持科目 | | 選択 区分 | 必修 | 単位数 (時間) | 1(15) | 授業 形態 | 講義 | 科目等 履修生 | 否 |
| | | | | | | | | | | | オープンクラス | 否 |
| 科目 目的 | 小児の健やかで幸福な成長をサポートするために、常に変化(発育・発達)する小児の特徴を理解して、小児期の疾患の予防と治療、看護援助の基本を習得する。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ ポリシー (DP) | 主要なDP | B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | | | | | | | | | | | |
| 到達 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の発育・発達について説明することができる 2. 小児期に特徴的な疾患の病態生理を説明することができる 3. 小児期疾患に対する治療と予防の概念、看護援助の基本を説明することができる | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 (基準) | 試験(80%)、レポート(20%)、出席状況(出席していることが評価の前提) | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と 基準等 | 願により実施 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 必要時に提示 | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待 | 小児診療においては、常に発育・発達のどの時期にあるのかを念頭に置く必要があります。講義では多くの疾患を網羅するのではなく、小児期に特有な疾患、とくに重要なものにポイントを絞り、『なぜこの病気が起こるのか?』『どうしてこの治療をするのか?』という点を中心に解説したいと思います。単なる暗記でなく、「考える小児看護」を勉強してください。講義で触れなかった疾患については、自己学習して、不明な点は講義の期間に質問してください。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | | 学習内容 | | | | 主担当 教員 | 授業 方法 | | |
| 1回 | 小児の発育・発達と疾病が与えるインパクト | | | | (小児臨床看護総論を中心に) 正常な発達・発育過程を理解した上で、各時期における疾患が及ぼすインパクトを考える。疾患をもつ小児へのアプローチの基本を学ぶ。 | | | | 藤澤 | 講義 | | |
| 2回 | 先天異常と新生児疾患 | | | | (小児臨床看護各論 1, 2章) 新生児期の疾患を概説する。先天異常や低出生体重児に起こりやすい合併症に関して解説する。また乳幼児突然死候群についても概説する。 | | | | 貝沼 | 講義 | | |
| 3回 | 小児期に特徴的な感染症 | | | | (小児臨床看護各論 6章) 感染症は最も頻度の多い小児疾患である。新生児・乳児・幼児期にみられるウイルス感染症と細菌感染症について学習し、予防接種の重要性を理解する。 | | | | 藤澤 | 講義 | | |
| 4回 | 小児の免疫・アレルギー疾患・呼吸器疾患 | | | | (小児臨床看護各論 5, 7章) アレルギー疾患としての気管支喘息、食物アレルギー、免疫異常としてのリウマチ性疾患など について、病態に基づいたケアの基本を学ぶ。 | | | | 藤澤 | 講義 | | |
| 5回 | 小児の代謝・内分泌疾患 | | | | (小児臨床看護各論 3, 4章) 小児に特有の内分泌/代謝疾患を概説する。発育/発達の軸に沿って、先天性代謝異常(新生児マススクリーニング)、小児糖尿病、成長障害に関わる内分泌疾患などを取り扱う。(レポート課題提示) | | | | 貝沼 | 講義 | | |
| 6回 | 小児の循環器・消化器疾患 | | | | (小児臨床看護各論 8, 9章) 小児期に特有の疾患群を概説する。肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、先天性胆道閉鎖症、先天性心疾患の病態とケアのポイントを学ぶ。 | | | | 貝沼 | 講義 | | |
| 7回 | 小児の血液疾患・悪性腫瘍・腎疾患 | | | | (小児臨床看護各論 10, 11, 12章) 小児でよくみられる貧血、出血性疾患の病態を理解し、造血器腫瘍、固形腫瘍では成人と異なる小児期の特徴を整理する。急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 | | | | 貝沼 | 講義 | | |
| 8回 | 小児の神経疾患・小児科に受診する精神疾患 | | | | (小児臨床看護各論 13, 18章) 小児期に多い痙攣性疾患(熱性痙攣、てんかん)を理解する。小児科を受診することが多い精神疾患(発達障害、摂食障害など)を知る。(レポート提出) | | | | 貝沼 | 講義 | | |

学 習 課 題

第5回でレポート課題を提示します。
課題例：1型糖尿病を発症した13才女児への疾患教育とサポート
川崎病の児の母への疾患説明とサポート
アドヒアランス不良の喘息児への疾患説明とサポート
ワクチンで予防可能な疾患の症状とワクチンスケジュール
熱性痙攣で救急受診した児の家族への説明
第8回にレポートを提出してください。

実務経験を活かした教育の取組